

トピックス



大阪市北区天満橋 1-8-75 TEL 050-3160-6763

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>

平成26年度 国有林モニター会議の開催 (第1回・滋賀県)



伊崎国有林での植生回復対策事業の説明

【総務企画部 企画調整課】 9月7日(日)、東海、北陸、近畿在住の11名のモニターの皆さんにご参加いただき、今年度第1回目となる国有林モニター会議として、滋賀森林管理署管内の国有林で行っているカワウ被害対策と治山事業の現地見学及び意見交換会を実施しました。

はじめに、カワウ被害対策と森林植生の回復対策を実施している伊崎^{いさき}国有林を見学しました。過去には、滋賀県内で約41,000羽(伊崎国有林約11,000羽)の生息数が確認されたカワウについて、関係機関と連携した銃器捕獲等により、今では県内で約8,500羽(伊崎国有林約1,400羽)まで減少させると共に、森林の植生回復対策により復旧していく森林の現況を見ていただきました。モニターの方からは、カワウと人が共生できる森づくりへ向け「もっと捕獲すべき」「カワウの生態を調査して一層の対策を講じて欲しい」等のご意見をいただきました。

次に一丈野^{いちじょうや}国有林において、治山事業地等の見学を行いました。一丈野国有林は、「レクリエーションの森」として一般の方の利用も非常に多いところですが、前日の大雨の影響を全く感じさせない安定した水量と綺麗な川の流れに、治山事業の必要性を感じていただきました。

その後、滋賀森林管理署において意見交換を行いました。なお、意見交換は移動中のバスの中でも行われました。意見交換では、

- ・木質バイオマス発電等への国有林材の供給を推進して欲しい。
- ・大阪府(箕面市)では森林環境教育に熱心に取り組まれているが、他県でも同様に行って欲しい。



一丈野国有林での治山事業の説明



意見交換

- ・家を建築する場合に、国産材と外国産材の性能の違いなど教えて欲しい。
- ・CLT(直交集成板)の国内普及を期待している。
- ・外国資本による森林買収について、法律等の制定が遅れており、水源地の保護等の観点からも一層の規制策に取り組んで欲しい。

などについて、活発な意見交換が行われました。

今回の会議で得られた貴重なご意見・ご要望については、今後の国有林野の管理経営に反映させるよう努めていきたいと考えています。

参加いただきましたモニターの皆様には、貴重なご意見を賜りましたことについて、紙面をお借りして御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

近畿中国森林管理局では、国有林について地域の皆様方の理解を深めるとともに、双方向の情報・意見の交換を図り、ご意見やご要望を国有林行政に役立てることにより、開かれた「国民の森林」にふさわしい管理経営を行うことを目的として、管内65名の方に「国有林モニター」をお願いしています。

ニュース

広島豪雨災害について

【計画保全部 治山課】 8月19日（火）～20日（水）、広島市北部地域では、1時間に100ミリ以上の猛烈な雨により土石流が発生し、死者74名となる甚大な被害が発生しました。これまでの対応状況について報告します。

【初期対応】

当局では、広島県
の要請も踏まえ、山
地災害発生状況の把
握や早期復旧に向け
た対応の検討のため、
県の災害担当者、(独)

森林総合研究所の専門家等と合同でヘリコプターによる

【高松山国有林の被災状況】



調査や現地調査を実施
しました。

広島県（8/26 から
広島市）に設置
された現地対策本部



【犬吠鳴山国有林での現地調査の状況】

（9/10 から現地連絡
調整室）に局幹部職員等を派遣し、情報収集や関係行政
機関との調整を行い、民有林部局との連携を図りつつ速
やかな応急復旧等への対応に努めました。

【二次災害防止のための応急復旧】

広島市で発生した山地災害
については今後、土石流など
二次災害の発生の恐れがある
箇所において、土石流警報装
置（土石流センサー）を設置
するとともに応急復旧対策と
して、流出土砂の撤去や大型
土のうの設置を行いました。



【土石流センサー設置状況】

【本格的な災害復旧】



【執務状況】

今後は、災害復旧工事の発注を順次行い、被災地の安全・安心の確保に向け取り組んでいく考えです。

災害復旧を早急
に進めていくため、
円滑に災害申請書
類の作成等を行う
ために本庁及び局
から職員を派遣し
ました。

森林総合監理士
（フォレスター）を目指して

【森林技術・支援センター】 昨年、森林総合監理士（フォレスター）制度が確立され、全国に約200名程度のフォレスターが誕生し、市町村森林整備計画等への支援活動を行っているところです。

こうした中、林野庁では、今年度から「技術者育成研修」を実施し、フォレスターを目指す若手技術者の育成に取り組んでいます。研修は、東京で行う「中央研修」と全国7ブロックで行う「ブロック研修」に分けて実施しています。

近畿中国ブロックの研修は、平成26年8月25日～28日と9月8日～11日の2回に分け岡山県新見市において実施し、府県や国等から計48名が参加しました。

研修では、森づくり構想実習として、現状の森林を将来どのような森林に仕立てるのか、今後の施業をどのように実施していくのかなど現場で検討しました。

また、資源の循環利用構想演習では、約600haの森林に対し、搬出間伐に向けた道づくり、搬出方法、需要を捉えた木材販売戦略などをグループ単位で検討し、雇用創設・市町村が受ける効果などをとり



まとめ、市町村長向け（仮想）プレゼンテーションを行いました。

この研修では、外部講師以外に森林管理



局及び森林技術・支援センター職員も講師を務め、国有林の現場で培ってきた実践的な林業技術や経験を踏まえた講義を行いました。

研修生からは、普段の業務の中で得ることのない貴重な体験であったなどの感想が聞かれ、それぞれが、将来、フォレスターを目指すことを決意し無事終了しました。

森林総合監理士（フォレスター）とは
森林・林業に関する専門的かつ高度な知識及び技術並びに現場経験を有し、長期的・広域的な視点に立って地域の森林づくりの全体像を示すとともに、市町村等への技術的支援を的確に実施する技術者のことで、平成25（2013）年度から認定を開始しました。

だいせん

大山二代目松 下草刈り・自然観察会開催！

【鳥取森林管理署】 9月6日（土）、大山国有林で二代目松下草刈り（活性化剤散布）及び自然観察会を開催し、県内各地から一般公募による8名と大山森林生態系保全管理協力員4名に参加いただきました。

午前中は、植栽している二代目松周辺の下草刈りを行いました。参加



【活性化剤散布中】



者は各々で松周辺に生えている雑草やつるを刈り取り、松が生育しやすい環境に整備しました。

参加者の皆さんは慣れた手つきで作業を行い、あっという間にきれいな植栽地になりました。

午後からは、保全管理協力員の解説のもと、自然観察会を行いました。観察会は毎年数回大山各地で行われており、今回は大山麓の下山キャンプ場内の森林で行いました。標高約600m地点のキャンプ場ではミズナラが多く見られ、ナナカマドやカエデ等多くの植物を観察することができました。散策から一時間ほど経った時、雨が降り雷の音が聞こえてきた為、残念ながら途中で中止することになりましたが、保全管理協力員の解説や豆知識を聞きながらの散策会は大いに盛り上がりました。

今後も、一般の参加者、保全管理協力員、森林管理署が共同で実施する森林づくりと自然観察会を通じての交流をこれからも継続していきたいと考えています。



「ドコモ徳地滑松の森」育樹活動

【山口森林管理事務所】 9月6日（土）、山口市徳地のなめらやま滑山国有林（ドコモ徳地滑松の森）において、「ドコモ徳地滑松の森 育樹活動」が開催されました。「ドコモ徳地滑松の森」は、平成11年度に法人の森林として分収育林契約を締結し、NTTドコモグループが下刈や間伐等の森林整備事業を行ってきました。この活動は森林資源の維持増進、自然環境の保全・形成及び地域社会への貢献並びにボランティア活動の発展と緑化思想の高揚を図ることを目的に行われています。

今回は、株式会社NTTドコモCS中国の職員ら35名が参加し、当所からも職員4名を派遣しました。

まず、当所総括森林整備官より今回の作業である下刈の方法や注意点について説明を行った後、林道を10分ほど歩いてから滑川を渡って作業現場に到着しました。



林内は、スギやヒノキといった針葉樹のほか広葉樹も生育している箇所、参加者は3班に分かれて、ササで埋め尽くされた足元を隅々まで鎌を用いて刈り取りました。



当日は雨が心配される空模様でしたが、幸い作業中に天気が崩れることはなく、参加者は心地の良い汗を流しながら作業を行うことができました。参加者の皆様は慣れない作業に戸惑いながらも、作業後の綺麗に整備された林内を満足そうに眺めていました。

最後に、「ドコモ徳地滑松の森」の看板の前で記念写真を撮って今回の活動を気持ち良く終えました。

大学生のインターンシップ (就業体験学習) 受入

【兵庫森林管理署】 8月25日(月)～29日(金)の5日間、兵庫森林管理署で京都府立大学の学生1名をインターンシップ(就業体験学習)として受け入れました。

この制度は、大学生等が農林水産省の行政実務に就業体験実習を通じて、学生の学習意欲や高い就業意識を育成するとともに林野行政並びに国有林野事業に対する理解を深めてもらうことを目的としています。

就業体験学習として、当署が実行している



- ・ 森林計画
 - ・ 境界巡検及び巡視
 - ・ 素材生産事業地及び複層林の現地確認
 - ・ 森林作業道の踏査、測量
 - ・ 治山事業計画の作成及び現地調査
- など主に現場で行う業務

を体験してもらいました。

実習期間は雨の日もあり、合羽を着ての作業は大変だったと思いますが、汗だくになりながらも真剣にかつ意欲的に取り組んでいました。

実習終了後に、「現場を観ることの大切さ、現場の地勢を読み、実際の山の状況を把握し、今何が必要なのかということを判断する大切さを学びました。」「職員の方々や現場で働く受注先の方々と業務のこと、地域のこと、そしてその人の人生経験についてお話しする機会が沢山ありました。」「林業は高性能林業機械の導入によって作業効率性が上がったことにより、泥まみれになるという林業のイメージが以前よりもスマートで”きれい”になったことを嬉しそうに話しておられたことが印象的でした。」「また、この実習で体験した業務はほんの一部ですが、職員の方々は国民の為に山を整備し、治める仕事をされていることを実感しました。短いながらも充実した、貴重な体験をさせていただきました。」等との感想をいただきました。

実習生がこれをひとつの機会として、さらに森林・林業の現状や課題に関心を持ち、そしてこの分野で大いに活躍されることを職員一同願っています。



第31回「夏休み木工教室」開催

【和歌山森林管理署】 8月27日(水)、和歌山森林管理署主催・県西牟婁振興局林務課及び署OBの方々の協力による夏休み木工教室を和歌山森林管理署で開催しました。

田辺市とその周辺町から小学生30人が参加し、紀州材のヒノキを使った多目的に使える「木製台」作りにチャレンジしました。

このイベントは、毎年夏休みの思い出づくりや宿題を兼ね、木に親しんでもらおうと長年にわたり毎年開いています。



はじめに、当署の牧野署長から歓迎の挨拶のあと、職員から作業の安全、道具の使い方と注意事項を説明し、いよいよ木工作り開始！

子ども達は、スタッフの親切な指導を受け、慣れない手つきで曲尺や定規で寸法を測り、図面を見ながらドライバーや金槌を使い作品を組立てました。仕上げにヒノキ材の表面をサンドペーパーで一生懸命に磨きながらしなやかになっていく木の感触を楽しみました。

また、ウッドバーニングで色々な絵を描いたりしてオリジナリティあふれる作品を見事に完成させ、苦労して作った作品をお互いに笑顔で見せあっていました。

午後からの森林教室では、森林管理署職員が講師となり、実際の木にそれぞれの特徴や、香りがあることを知るために、匂いを嗅いだり、実物の木材を見たり、触ったりして、身近なところにたくさんの木材が使われていることを改めて実感しました。

当署では、地域の子もたちが木のことを知る機会を



提供し、少しでも森林に関心を持ち、理解を深めてもらうために、今後もこのイベントを継続していきたいと思っています。

林業事業体等（造林・素材生産） との意見交換会を開催

【森林整備部 森林整備課・資源活用課】 9月11日（木）森林管理局、12日（金）、森林技術・支援センターにおいて、「平成26年度林業事業体等（造林・素材生産）との意見交換会」を開催しました。

事業体からは、事業最盛期にもかかわらず、延べ29社（38名）の参加を頂きました。

まずはじめに、森林管理局長から「造林・素材生産事業の更なる推進のためには、皆様との意見交換の実施が重要と考えており、皆様方から忌憚のないご意見を伺い、今後の造林・素材生産事業の円滑な実施に活用させていただきたい」と挨拶がありました。

続いて、発注者綱紀保持、林業労働における労働災害防止、平成27年度の造林・素材生産事業の方向性（低コスト造林、システム販売の拡大ほか）などについて、それぞれの担当者から説明を行いました。

特に、林業労働における労働災害防止については、今年度は全国的に重大災害が多発しているため、当局職員からの指導だけではなく、林業・木材製造業労働災害防止協会から安全管理士を招き、労働災害防止の指導を行いました。

意見交換会では、総合評価落札方式の評価結果の照会方法や現場の実行記録写真の簡素化等について要望等が出されました。当日出された意見要望等については、検討結果を局ホームページで公表することとしています。

次回の意見交換会は、平成27年2月頃に開催する予定です。



お知らせ

森林のギャラリー（局庁舎1階）

【10月の展示スケジュール】

テーマ：木づかいを楽しもう

10/20～10/24 日本日曜大クラブ大阪支部作品展

【日本日曜大クラブ大阪支部】

「大山森林生態系保護地域自然観察会」

参加者募集中！

～中ノ原大ブナから元谷紅葉を経て寂静展望台へ～

伯耆富士の名で親しまれている大山は、豊かな生物相と史跡と伝説に恵まれた山陰の名山です。この大山の主峰を中心として周辺に広がる林野に大山森林生態系保護地域が設定されており、鳥取森林管理署がこれらの保全管理を行っています。

今回は、森林生態系保護地域の多様性に富んだ豊かな生物相や森林植生等のほか、森林生態系の重要性や保護管理活動を一般市民の皆さんに理解してもらうための自然観察会を企画しました。

ぜひ、この機会に参加してみませんか？

皆さんのご参加をお待ちしています。

- * 日時 11月9日（日） 10時～15時
- * 募集人員 20名（申込み先着順）
- * 対象者等 健康で登山のできる人（小学生以下は保護者同伴）
- * 申込み FAX、ハガキにより、住所・氏名・年齢・連絡先電話番号を明記の上、10月27日までに申し込んでください。（電話での申込みもできます。）
- * その他 参加費は、100円です。（保険料等として）登山できる服装・靴、昼食、飲み物、雨具、軍手、筆記用具、ゴミ袋、双眼鏡（あると便利）等。

* 応募先・問い合わせ先

鳥取森林管理署 森林技術指導官

TEL：050-3160-6105

HP：http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/tottori/information/event_boshu.html

花草木

今月の花草木は、「イチョウ」です。

イチョウは、中国原産の落葉高木で、高さ20～30mになります。また、裸子植物門イチョウ綱の中で唯一現存している種であるため、「生きた化石」とよばれ、人為的な移植により世界中に分布しています。針葉樹とされる場合もありますが、厳密には広葉樹にも針葉樹にも属さないそうです。

イチョウは、長寿で成長すると巨木になります。日本各地に幹周が10mを超えるようなイチョウの巨木も存在し、環境省の調査におけるもっとも太い株は、青森県深浦町にある「北金ヶ沢のイチョウ」で、幹周は22mを超え、日本で有数の巨木に位置づけられています。

木材としては、油分を含み水はけがよく、材料も均一で加工性に優れ、歪みが出にくい特質を持っていることから、カウンターの天板・構造材・造作材・建具・家具・水廻りなど広範に利用され、基盤や将棋盤にも適材とされるほか、特にイチョウ材のまな板は高級とされているそうです。

また、火に強い性質があるため、江戸時代には火除け地（江戸に設置された防火用の空き地）に多く植えられました。

現在では、黄葉時の美しさと、剪定に強いという特性から、街路樹として利用されています。

また、都道府県の木として、東京都、神奈川県、大阪府で指定されています。

シリーズ 保護林 第16回

近畿中国森林管理局の保護林

ひょうのせん さんのまる

氷ノ山・三の丸ブナ植物群落保護林 [揖保川森林計画区]



ブナ



シマザサとブナ林



ブナ林

氷ノ山・三の丸ブナ植物群落保護林[揖保川森林計画区]は、兵庫県宍粟市に位置する坂ノ谷国有林にあります。裏日本地帯における西限付近のブナ・オオバクロモジ群落の天然林を保護することを目的としています。

この保護林の面積は、159.37ha（全体 384.75ha）で、氷ノ山後山那岐山国定公園、水源かん養保安林、保健保安林、遺伝子保存林、鳥獣保護区にも指定されています。

氷ノ山（1509.6 m）、三の丸（1464 m）への登山道が整備されており、休日には多くの登山者が訪れています。

【氷ノ山・三の丸ブナ植物群落保護林へのアクセス】

◎国道 29 号線から・・・国道 29 号線より坂ノ谷林道を上り、坂ノ谷登山口からアプローチ。



ブナ

Fagus crenata Blume

【氷ノ山・三の丸ブナ植物群落保護林に生育する植物】

◎植物：ブナ、トチノキ、ミズメ、ウリハダカエデ、オオバクロモジ、ホオノキ、シナノキ、ミズキ、ハウチワカエデ、コミネカエデ、ナナカマド、オオカメノキ、シチマザサ、ハイイヌツグ、イワガラミ、ユキザサなど

◎動物：ニホンジカ、ツキノワグマ、イノシシ、キツネ、タヌキ、コエゾゼミ、ルリボシヤンマ、アキオサムシ、コリクワガタ、ヒメボタル、オオムラサキなど

【保護林及び国有林内での注意事項】

- ★国有林内の動植物の捕獲、採集はできません。
- ★国有林内では火気厳禁です。林内では禁煙にご協力ください。
- ★自然環境の保護と安全な利用のために、歩道等を外れないようにお願いします。
- ★林道は幅が狭い未舗装の所がほとんどです。落石の危険性もあります。注意して通行してください。
- ★ツキノワグマ生息域ですので、熊鈴をつけるなど十分に準備・注意をしてください。

